

# 新 光 遺 跡

大分市久土川の河川改修工事に伴う発掘調査報告書

大分県文化財調査報告

第 82 輯

1 9 9 0

大 分 県 教 育 委 員 会

# 新 光 遺 跡

## 序 文

大分市東部の取の市周辺は豊後風土記や和名称に記載されている豊後国海部郡佐惣郷にあたり、古代国家である大和朝廷のもとで活躍した「豊後海部」の本拠地として知られています。このため多くの古墳や遺跡が残されており、県下有数の遺跡集中地域となっています。

一方、瀬戸内海に面する遠浅の海岸線のこの地は、現在大分県の新産業都市計画に基づく工業地帯として生まれ変わり、その周辺地域についても、土地区画整理事業や河川改修工事など環境整備が進んでいます。

本書の新古遺跡もこうした事業の一環に伴うものとして調査したものであります。短期間の調査でありましたが、多くの成果をあげることができ、今後の社会教育や学術研究に貢献できることが少なくないと確信いたします。

最後になりましたが、この調査にご協力いただきました大分県土木建築部・大分市教育委員会をはじめ関係各位に対し、心から感謝を申し上げます。

平成2年3月31日

大分県教育委員会

教育長 嶋津文雄

## 例 言

- 1 本書は大分市久土川の河川改修工事に伴う埋蔵文化財の発掘調査報告書である。
- 1 調査は、大分県土木建築部の委託事業として、平成元年度に大分県教育委員会が実施した。
- 1 発掘調査は大分県教育庁管理部文化課の担当職員が当たった。
- 1 本書の遺構・遺物の実測と写真撮影は坂本嘉弘（文化課）が当たったほか、野勝教（文化課）の協力を得た。また校正は、吉武牧子（文化課）の手をわずらわせた。
- 1 本書の執筆と編集は坂本による。

# 目 次

|     |            |    |
|-----|------------|----|
| I   | はじめに       | 1  |
| 1   | 遺跡の立地と環境   | 1  |
| 2   | 調査の経緯      | 2  |
| (1) | 調査に至るまでの経過 | 2  |
| (2) | 調査の経過      | 2  |
| (3) | 調査の体制      | 2  |
| II  | 調査の成果      | 4  |
| 1   | A地区の調査     | 4  |
| (1) | 調査の概要      | 4  |
| (2) | 古墳時代の調査    | 5  |
| 1)  | 遺 構        | 5  |
| 2)  | 遺 物        | 6  |
| (3) | 奈良時代の調査    | 10 |
| 1)  | 遺 構        | 10 |
| 2)  | 遺 物        | 10 |
| (4) | 包含層出土遺物    | 11 |
| 1)  | 土 器        | 11 |
| 2)  | 紡錘車        | 11 |
| 2   | B地区の調査     | 12 |
| (1) | 調査の概要      | 12 |
| (2) | 出土土器       | 13 |
| III | まとめ        | 16 |

# 挿 図 目 次

## I はじめに

|     |                  |   |
|-----|------------------|---|
| 第1図 | 新光遺跡周辺の主要遺跡      | 1 |
| 第2図 | 新光遺跡周辺の地形と調査区位置図 | 2 |

## II 調査の成果

|      |                      |    |
|------|----------------------|----|
| 第3図  | 新光遺跡A地区全体図           | 4  |
| 第4図  | 新光遺跡A地区住居跡実測図        | 5  |
| 第5図  | 新光遺跡A地区住居跡出土土器実測図(1) | 7  |
| 第6図  | 新光遺跡A地区住居跡出土土器実測図(2) | 8  |
| 第7図  | 新光遺跡A地区住居跡出土土器実測図(3) | 9  |
| 第8図  | 新光遺跡A地区奈良時代遺構実測図     | 10 |
| 第9図  | 新光遺跡A地区包含層出土弥生土器実測図  | 11 |
| 第10図 | 新光遺跡A地区出土紡錘車実測図      | 11 |
| 第11図 | 新光遺跡B地区調査区位置図        | 12 |
| 第12図 | 新光遺跡B地区出土土器実測図(1)    | 14 |
| 第13図 | 新光遺跡B地区出土土器実測図(2)    | 15 |

## III まとめ

# 図 版 目 次

|       |   |                   |    |
|-------|---|-------------------|----|
| 写真図版1 | 上 | 新光遺跡遠景 1          | 18 |
|       | 下 | 新光遺跡遠景 2          | 18 |
| 写真図版2 | 上 | 新光遺跡A地区全景         | 19 |
|       | 下 | 新光遺跡A地区住居跡検出状況    | 20 |
| 写真図版3 | 上 | 新光遺跡A地区住居跡内遺物出土状況 | 20 |
|       | 下 | 新光遺跡A地区奈良時代遺構検出状況 | 20 |
| 写真図版4 |   | 新光遺跡A地区出土遺物(1)    | 21 |
| 写真図版5 |   | 新光遺跡A地区出土遺物(2)    | 22 |
| 写真図版6 |   | 新光遺跡B地区出土遺物       | 23 |

# I はじめに

## 1 遺跡の立地と環境

遺跡は大部分市の東部、久土地区にある。この地区は南を中央構造線に起因する標高400m前後の山塊が東西に連なり遮断され、北は別府湾に注ぐ小河川である丹生川の低湿地が広がる。丹生川の北方には標高40m～80mの丹生台地あり、さらにその北に別府湾がある。また、西方3kmには、大分県下最大の河川である大野川が北流している。

丹生川の一支流である久土川の東に立地する新光遺跡からは、弥生・古墳・奈良時代の遺物や遺構が出土した。これらに関連する周辺の遺跡は、弥生時代では昭和37年調査し木器を出土した丹生川遺跡があり、古墳時代では丹生台地の南部に数基の前方後円墳を含む10基からなる



第1図 新光遺跡周辺の主要遺跡

野間古墳群、また東端部には県下最大級の100mをこえる前方後円墳の亀塚古墳があるのをはじめ、大在古墳・大蔵古墳・上ノ坊古墳などが点在し、大分県でも有数の古墳集中地区となっている。奈良時代の遺跡は大分市西部にある国分寺が知られているが、最近では大野川の西の台地で官衙的な遺構が検出された地蔵原遺跡があり、新光遺跡の周辺でも見つかっている。

## 2 調査の経緯

### (1) 調査に至るまでの経過

丹生川周辺は市街化の進む大分市にあって比較的水田が残る農村地帯である。新光遺跡のある久土地区もこの一角にあり、昭和63年度年に圃場整備事業も実施されている。この地区の水田は谷間に広がり、中央に流れる久土川は小河川であるが河床が高いため周辺は冠水することもしばしばであった。そこでこれらを解決するとともに水田の有効利用をはかるために、この川を東側の山沿いに付け替える計画を立てた。ところが圃場整備事業の際遺跡があることが判明しており、河川改修工事の際も発見される可能性が高いことが考えられ、事前に調査することになった。

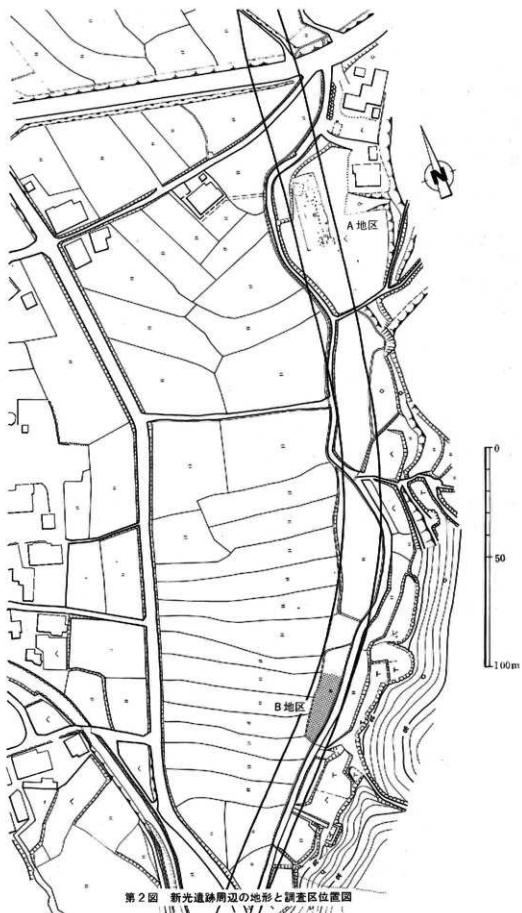
### (2) 調査の経過

調査は工事対象地が広いこともあり、地形や圃場整備の際の調査の成果などを参考に試掘調査を実施した。その方法は土壌が結晶片岩の砂礫混じりであることや、遺構検出面までが深いこともあり、大型重機を使い掘下げを行なった。その結果、3カ所で遺構や遺物の集中する部分を確認した。しかし、その内の一ヶ所は、まとまりのないピットのみで調査をしても成果をあげられないと判断した。そこで工事予定地区の北部をA地区、南部をB地区とし平成元年12月から翌2年1月まで本調査を行なった。

### (3) 調査の体制

調査の体制は次のとおりである。

|       |                                                                                                                                                                                                           |
|-------|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 調査委託者 | 大分県土木建築部                                                                                                                                                                                                  |
| 調査主体  | 大分県教育委員会                                                                                                                                                                                                  |
| 調査総括  | 嶋津 文雄（大分県教育委員会教育長）<br>後藤 正二（大分県教育委員会管理部参事兼文化課長）<br>後藤 宗俊（大分県教育委員会文化課長補佐）                                                                                                                                  |
| 調査事務  | 今永 一成（大分県教育委員会文化課庶務係長）<br>山口 淳史（大分県教育委員会文化課庶務係主事）<br>青木 磨（大分県教育委員会文化課庶務係主事）                                                                                                                               |
| 調査員   | 清水 宗昭（大分県教育委員会文化課埋蔵文化財第1係長）<br>坂本 嘉弘（大分県教育委員会文化課埋蔵文化財第1係主査）<br>牧尾 義則（大分県教育委員会文化課埋蔵文化財第1係主査）<br>西 哲弘（大分県教育委員会文化課埋蔵文化財第1係主任 試掘担当）<br>後藤 一重（大分県教育委員会文化課埋蔵文化財第1係主任 試掘担当）<br>綿貫 俊一（大分県教育委員会文化課埋蔵文化財第1係主事 試掘担当） |



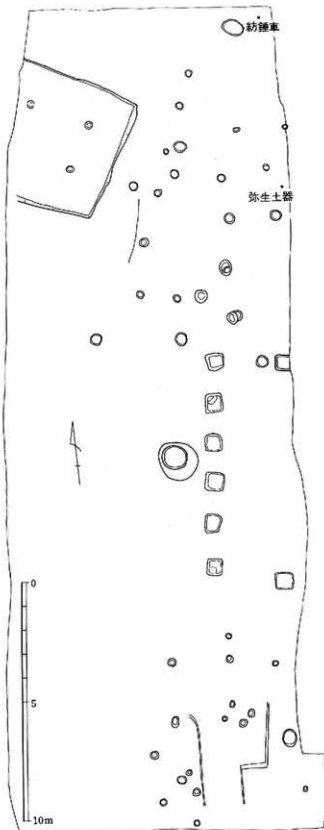
## II 調査の成果

### 1 A地区の調査

#### (1) 調査の概要

新光遺跡A地区は南に連なる山塊から北に延びる尾根の先端部の西側緩斜面にあたる。標高は25m前後で水田との比高差は約5mで、畑地になっている。地表面は結晶片岩の砂礫混じりの土壌で、その下は暗茶色の粘質土でわずかに遺物を含む。遺構検出面は赤褐色粘質土で地表面から約70cmである。調査は重機によりこの赤褐色粘質土まで掘下げをおこない、その面積は約400㎡である。

検出した遺構は古墳時代の方形の竪穴住居跡が1基と奈良時代と思われる柱穴列である。この他完形品の弥生時代の埴形土器が出土したが、この時期の遺構は確認できなかった。



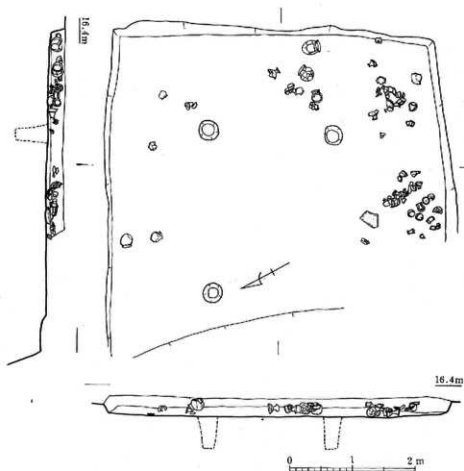
第3図 新光遺跡A地区全体図

## (2) 古墳時代の調査

### 1) 遺構

古墳時代の遺構は1基の竪穴住居跡のみである。西壁の部分は昭和62年度の同場整備事業で削り取られているため、全体を知ることはできない。残された範囲の住居跡の規模は、残りの良い東壁が5.1m、北壁5.1m、南壁3.1mで、検出面から約15cmで床面に達する。ほぼ平坦な床面上では、3ヵ所の柱穴を確認したが、その位置から基本的には4本の主柱穴による構造物であることが推測できる。

住居跡内から出土した遺物は土器ばかりであるが、甕・高坏・小形甕などの器種がありこの時期の土器組成を知るうえで重要である。出土状態は床面直上で、特に南壁から東南隅にかけては集中的に出土した。しかし、2・3の土器を除き破損したものが多く、住居跡廃絶後すぐに投棄されたものと考えられる。



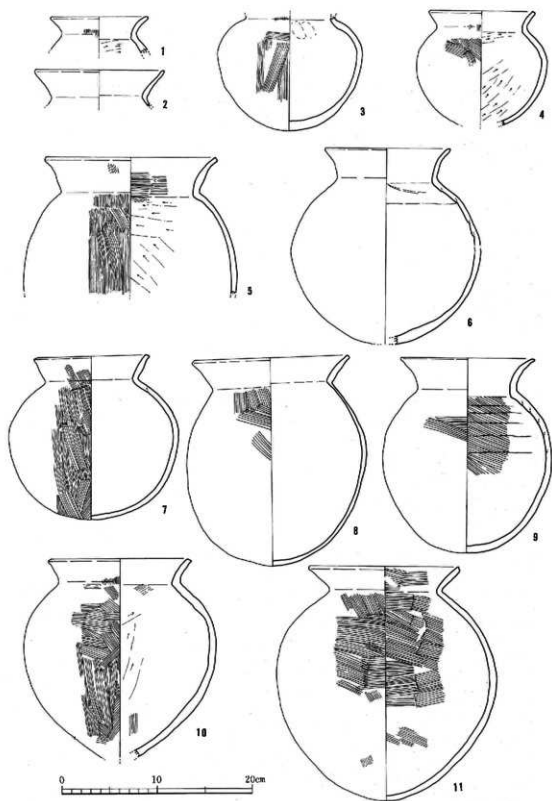
第4図 新光遺跡A地区住居跡実測図

## 2) 遺物

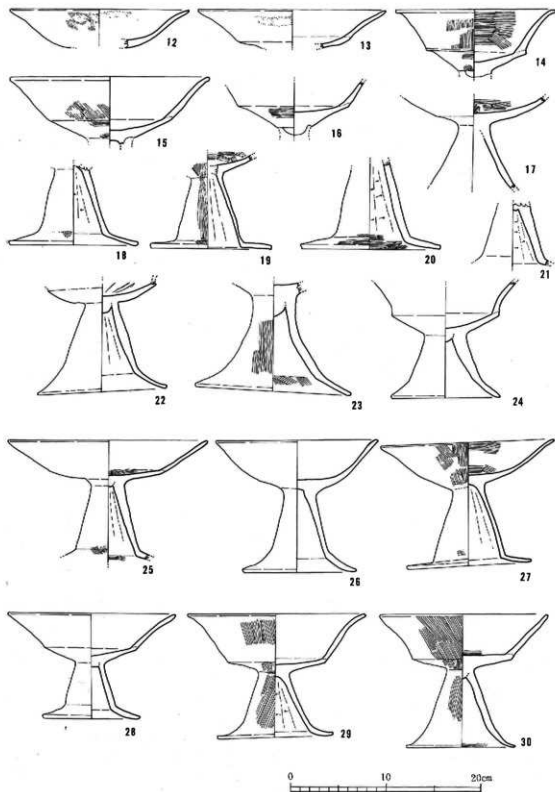
図示した古墳時代の遺物は全て住居跡出土のもので、器種は甕形上器・高坏・小形甕がある。

第1表 新光遺跡出土古墳時代土器観察表(1)

| 番号 | 器形・文様の特徴と形成・調整の方法                           |                                         | 胎土 |    |    |     | 備考      | 遺物番号           |
|----|---------------------------------------------|-----------------------------------------|----|----|----|-----|---------|----------------|
|    | 外面                                          | 内面                                      | 角閃 | 赤色 | 白土 | その他 |         |                |
| 1  | 甕 刷毛目あと横ナデ黄茶色                               | 口縁は横ナデ 胴部は縦削り                           | ○  |    | ○  |     |         | 12             |
| 2  | 甕 横方向のナデ 黄茶色                                | 横方向のナデ                                  |    |    | ○  |     |         |                |
| 3  | 甕 刷毛目あと横ナデ赤茶色                               | 頸部に指圧痕 平滑ナデ仕上げ                          |    |    | ○  | ○   | スス付着    | 22             |
| 4  | 甕 細かい刷毛目あと横ナデ 暗茶色                           | 口縁は横ナデ 胴部は縦削り 下位は斜目方向の縦削り               | ○  |    | ○  |     |         | 4              |
| 5  | 甕 口縁は刷毛目あと横ナデ 胴部は縦削り 下位は斜目方向の縦削り            | 口縁は横方向の刷毛目 胴部上位は横 中位は斜目方向の縦削り           | ○  | ○  |    |     | 砂粒 スス付着 | 21             |
| 6  | 甕 横方向ナデ 茶色                                  | 口縁は横ナデ 胴部に粘土の接合痕 指ナデ                    | ○  |    |    | ○   |         | 6              |
| 7  | 甕 口縁端部は横ナデ 胴部は縦削り 茶色                        | 全面横ナデ                                   | ○  | ○  | ○  |     |         | 2              |
| 8  | 甕 口縁横ナデ 胴部上位は粗い刷毛目 茶色                       | 口縁横ナデ 胴部は平滑ナデ仕上げ                        |    |    | ○  | ○   | スス付着    | 19             |
| 9  | 甕 口縁横ナデ 胴部は一部に粗い刷毛目を残しナデ                    | 口縁横ナデ 胴部は粘土接合痕が残り その上から刷毛目              | ○  |    | ○  | ○   |         | 12             |
| 10 | 甕 口縁は刷毛目あと横ナデ 胴部上位は横 下位は縦の粗い刷毛目 暗茶色         | 口縁は横ナデ 胴部は上位と下位に刷毛目が残り 中位は縦削り状の粗い仕上げ 茶色 |    | ○  | ○  | ○   | スス付着    | 1              |
| 11 | 甕 口縁は横ナデ 胴部は刷毛目調整であるが下位はナデ消され上位のみ残り 黒色斑あり   | 口縁から底部にかけて刷毛目調整、下位はナデ消し、煮コケ付着           |    |    | ○  |     |         | 8              |
| 12 | 高坏 刷毛目あとナデ 茶色                               | 刷毛目あとと坏底部は横ナデ                           | ○  | ○  |    | ○   |         |                |
| 13 | 高坏 刷毛目あとナデ 磨滅している 赤茶色                       | 横方向のナデ 器面は磨滅している                        | ○  | ○  |    |     |         |                |
| 14 | 高坏 縦方向の粗い刷毛目 黒色 茶色                          | 横方向の細かい刷毛目、坏底部はナデ                       |    |    |    |     |         | 29<br>32<br>37 |
| 15 | 高坏 斜め方向の刷毛目あと、横方向のナデと磨研 茶色                  | 横方向の磨研                                  |    |    | ○  |     |         |                |
| 16 | 高坏 下位は横方向の刷毛目 他は横方向のナデ                      | 横方向のナデ                                  |    |    | ○  | ○   |         | 17             |
| 17 | 高坏 坏部、脚部とも横方向の磨研 赤茶色                        | 坏部刷毛目 脚部横ナデ                             |    |    | ○  |     |         | 3<br>25        |
| 18 | 高坏 横ナデ 一部に刷毛目が残る 茶色                         | 縦削り状の調整、脚部は横ナデ                          |    |    | ○  | ○   |         | 26             |
| 19 | 高坏 全面刷毛目であるが、脚部はさらに縦方向の磨研 明灰色               | 坏部は刷毛目 脚部はナデ 屈曲部から脚部にかけては刷毛目で先端は丸みあり状   |    |    | ○  |     |         | 17<br>18       |
| 20 | 高坏 屈曲部上位は磨研 下位は横ナデ 茶色                       | 屈曲部上位は横方向の削り状 下位は横方向の刷毛目                | ○  |    |    |     |         | 36             |
| 21 | 高坏 屈曲部上位はナデ 茶色                              | 横方向の削り状                                 | ○  |    | ○  |     |         |                |
| 22 | 高坏 坏部、脚部とも 磨研 暗茶色                           | 坏部は磨研 脚部は横ナデ 茶色                         |    |    | ○  |     |         | 5              |
| 23 | 高坏 脚部は粗い刷毛目あとと磨研 磨研部は横ナデ 黄茶色                | 坏部は刷毛目 脚部も一部に刷毛目が残るもの横ナデ 茶色             |    |    | ○  | ○   |         | 23             |
| 24 | 高坏 全面横方向の磨研 茶色                              | 坏部は横方向の磨研 脚部は横ナデ                        | ○  | ○  | ○  |     |         | 12<br>15       |
| 25 | 高坏 磨滅している、脚の一部に刷毛目が残るか他は磨研 茶色               | 坏底面に刷毛目 脚部屈曲部から端部にかけて刷毛目                |    |    |    |     | 良質の粘土   | 39<br>40       |
| 26 | 高坏 坏部は横方向の磨研 脚部も磨研 茶色                       | 坏部は磨研 脚部は屈曲部から上位は削り状 下位は横ナデ             |    |    | ○  | ○   |         |                |
| 27 | 高坏 坏部は縦方向の刷毛目・脚部は屈曲部上位が縦方向の磨研 下位は横ナデ 黒色斑 茶色 | 坏部は横方向の刷毛目 脚部は横ナデ                       | ○  | ○  |    | ○   |         | 17             |
| 28 | 高坏 横方向の磨研 茶色                                | 坏部は横方向のナデ 脚部は屈曲部上位は横ナデ 下位はナデ            | ○  | ○  |    |     |         | 7              |



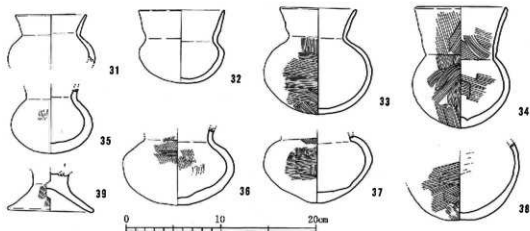
第5图 新光遺跡A地区住居跡出土土器実測図(1)



第6图 新光遗址A地区住居出土土器実測図(2)

第2表 新光遺跡出土古墳時代土器観察表(2)

| 番号 | 器種  | 器形・文様の特徴と成形・調整の方法                   |                                   | 胎 上    |        |        |        |        |        |     | 備考 | 遺物<br>番号 |
|----|-----|-------------------------------------|-----------------------------------|--------|--------|--------|--------|--------|--------|-----|----|----------|
|    |     | 外 面                                 | 内 面                               | 角<br>色 | 長<br>石 | 白<br>色 | 赤<br>色 | 石<br>英 | 緑<br>点 | その他 |    |          |
| 29 | 高坏  | 坏部は刷毛目のあと端部は横ナデ 脚部も刷毛目のあと端部は横ナデ 赤茶色 | 坏部は笠研透 脚部は屈曲部上位が鋭利形状 下位は横ナデ       |        |        | ○      | ○      | ○      | ○      |     |    |          |
| 30 | 高坏  | 坏部は斜目方向の刷毛目 脚部は刷毛目のあと端部は横ナデ 暗茶色     | 坏部は口縁部が横ナデ 坏底部は刷毛目 脚部は内向ナデ 端部に刷毛目 | ○      | ○      |        |        |        |        |     |    | 26<br>27 |
| 31 | 小形壺 | 横方向のナデ 茶色                           | 横方向のナデ                            |        | ○      |        |        | ○      |        |     |    |          |
| 32 | 小形壺 | 横方向のナデ 茶色                           | 横方向のナデ                            |        |        |        |        | ○      | ○      |     |    | 14       |
| 33 | 小形壺 | 口縁部は横方向のナデ 胴部は刷毛目 茶色                | 口縁は横ナデ 胴部は平滑ナデ仕上げ                 |        |        |        |        | ○      | ○      |     |    | 31       |
| 34 | 小形壺 | 粗い刷毛目 口縁端部は横ナデ 赤茶色                  | 口縁は横ナデ 頸部・胴部は横方向の刷毛目              | ○      | ○      |        |        |        |        |     |    | 33       |
| 35 | 小形壺 | 一部に刷毛目が残る 横ナデ 黒色斑 茶色                | 横ナデ                               | ○      |        |        |        | ○      |        |     |    |          |
| 36 | 小形壺 | 粗い刷毛目のあとと底部近くはナデ 黒色斑 茶色             | 頸部は横ナデ 胴部は刷毛目で底部はナデ               |        |        |        |        | ○      | ○      |     |    | 31       |
| 37 | 小形壺 | 薄く細かい刷毛目 底部はナデ 暗茶色                  | 強い指ナデ                             |        |        |        |        | ○      | ○      |     |    | 35       |
| 38 | 小形壺 | 粗い横方向の刷毛目 茶色                        | 横方向の底削り                           | ○      | ○      |        |        | ○      |        |     |    | 34       |



第7図 新光遺跡A地区住居跡出土土器実測図(3)

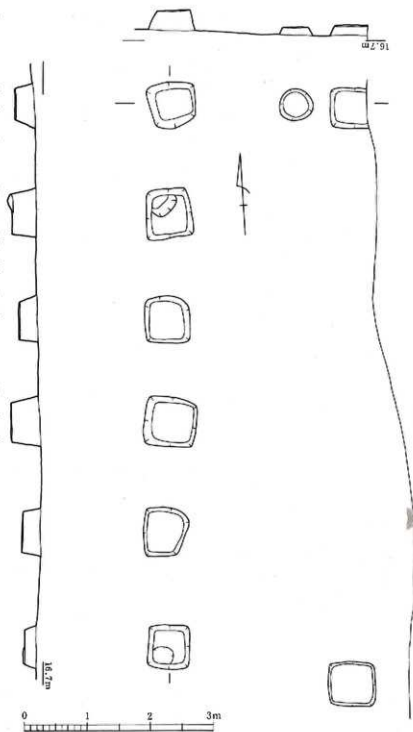
### (3) 奈良時代の調査

#### 1) 遺構

新光遺跡A地区からは幾つかの柱穴が検出された。多くは規則性のないものであったが、中央部で検出した六ヶ所の柱穴は、主軸を磁北から $6.5^{\circ}$ 東に振り一列に並ぶ。柱穴の形状は、平面観が方形になり、検出面からの深さは30~40cmである。それぞれの間隔は中心から1.8m前後である。北端の柱穴から東に3m離れた位置で同様な形状の柱穴を検出したが、南端の柱穴からの展開が不明である。

#### 2) 遺物

柱穴内からは新光遺跡B地区で出土した高台付き坪の小破片が出土したほか、土師器片が出土した。



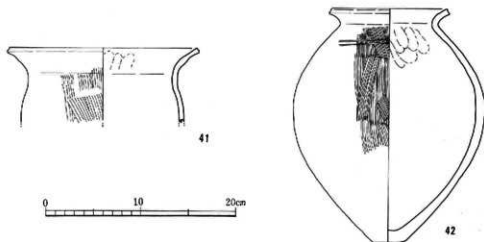
第8図 新光遺跡A地区奈良時代遺構実測図

#### (4) 包含層出土遺物

遺構を検出する作業中、調査区の東北隅から土器や紡錘車が出土した。住居跡の可能性もあるが、はっきりしないため包含層出土遺物として扱う。

##### 1) 土器

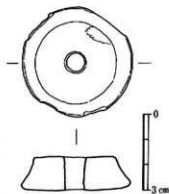
41・42とも袋形土器であるが、41の器面は口縁部が横ナデで、胴部は刷毛目で調整されている。42は完形品で、口縁部は横ナデ、胴部は上部が刷毛目で、下部はナデで仕上げられている。また、肩部には2条の罫描きの沈線がめぐる。内面は胴部上位に指圧痕が認められる他はナデ仕上げである。いずれも黄茶色で、胎土に角閃石・斜長石・石英を含む。時期は42の底部が平底で、胴部が長胴であることから、弥生時代後期後葉と考える。



第9図 新光遺跡A地区包含層出土弥生土器実測図

##### 2) 紡錘車

上面径2.1cm、反り気味の下面径2.9cmで厚さ0.9cm、穿孔径0.5cmの紡錘車である。石材は緑色片岩で、刻線などは認められない。



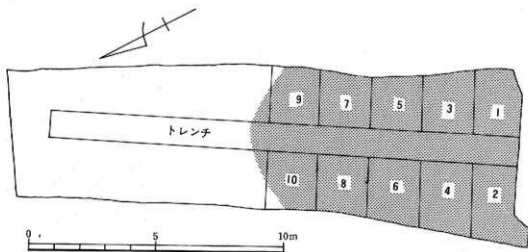
第10図 新光遺跡A地区出土紡錘車実測図

## 2 B地区の調査

### (1) 調査の概要

新光遺跡B地区は、標高15mの低地で、周辺の水田とほとんど同じである。現状も水田であったが、試掘調査の結果約30cm下に黒色粘質土があり、その中に多量の遺物が包含されているのが確認された。そこで、この部分を拡張し、遺構の存在や遺物の分布状態を確認した。

調査は拡張した100㎡について実施した。しかし、遺物包含層である黒色粘質土は調査区の南半分しか広がっておらず北半分は砂礫層が露出していた。さらにその南はすでに工事が完了していた。そこで、包含層の厚さや性格を知るため中央部に幅1mのトレンチを設定し掘下げを行った。その結果、この層は南端になるほど厚くなるが、それでも20cm前後であった。包含層の下層は北半分と同じ砂礫層で、遺構などは確認できなかった。このため残りの包含層については、2mおきにグリットを設定し掘下げた。遺物の出土状態は偏在することなく、全体から出土した。



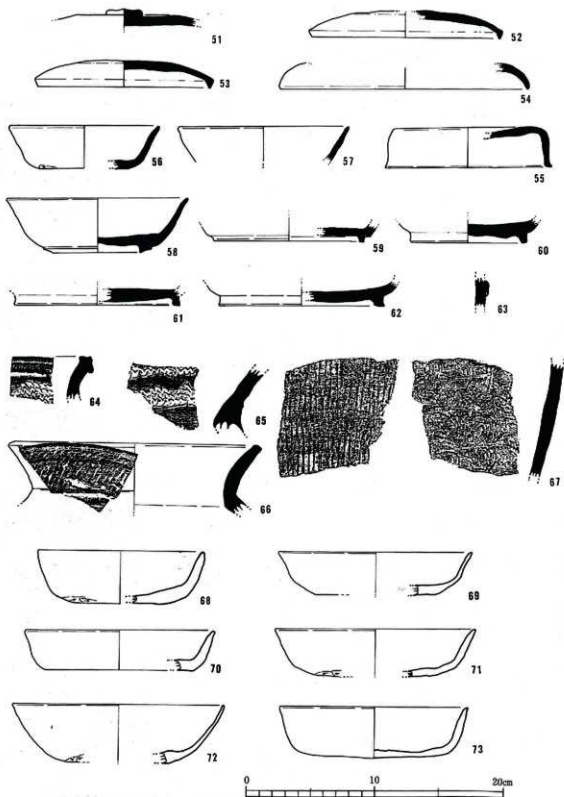
第11図 新光遺跡B地区調査区位置図

## (2) 出土土器

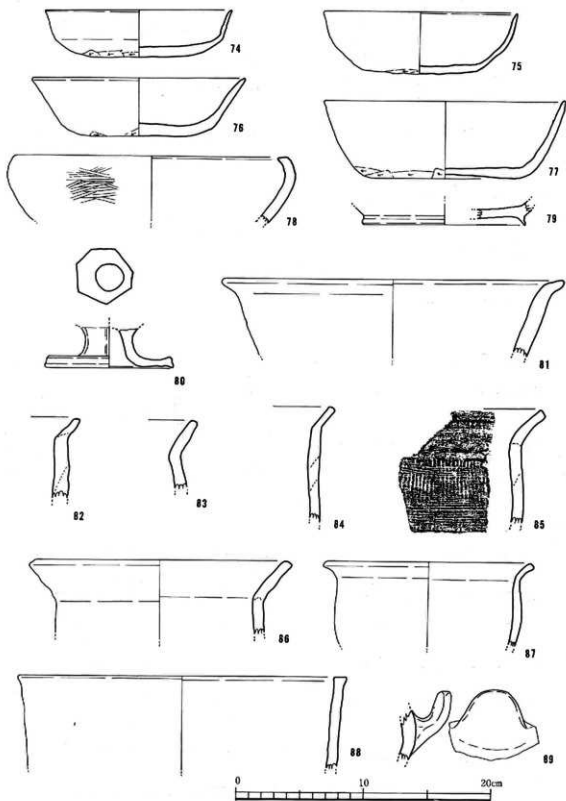
包含層から出土した遺物は全て土器で、須恵器と土師器があるが器種は杯・甕・甗・鉢があらる。

第3表 新光遺跡B地区出土土器観察表

| 番号 | 器種 | 文様および成形器面調整の方法 |         | 胎土            | 色調   | 備考                         |
|----|----|----------------|---------|---------------|------|----------------------------|
|    |    | 外面             | 内面      |               |      |                            |
| 51 | 杯蓋 | 宝珠つまみ周辺は鋭削り    | 横ナデ     | 角閃石           | 灰色   | 須恵器<br>鋭削りは<br>全て回転<br>による |
| 52 | 杯蓋 | 頂部は鋭削り 他は横ナデ   | 横ナデ     | 白色粒子          | 灰色   |                            |
| 53 | 杯蓋 | 頂部は鋭削り 他は横ナデ   | 横ナデ     | 角閃石・斜長石       | 灰色   |                            |
| 54 | 杯蓋 | 横ナデ 端部は丸い      | 横ナデ     | 石英            | 灰色   |                            |
| 55 | 蓋  | 頂部は鋭削り 他は横ナデ   | 横ナデ     | 右回転 石英        | 灰色   |                            |
| 56 | 杯  | 底部は鋭削り 他は横ナデ   | 横ナデ     | 石英・斜長石        | 灰白色  |                            |
| 57 | 杯  | 横ナデ            | 横ナデ     |               | 白灰色  |                            |
| 58 | 杯  | 底部は鋭削り 高台・口縁ナデ | 横ナデ     | 右回転 斜長石       | 灰白色  |                            |
| 59 | 杯  | 底部は鋭削り 高台上位はナデ | 横ナデ     | 斜長石           | 灰白色  |                            |
| 60 | 杯  | 底部は鋭削り 他は横ナデ   | 横ナデ     | 瓦質に近い 角閃石・斜長石 | 青灰白色 |                            |
| 61 | 杯  | 底部は鋭削り 高台は横ナデ  | 横ナデ     | 石英            | 白灰色  |                            |
| 62 | 杯  | 底部は鋭削り 他は横ナデ   | 横ナデ     | 石英            | 青灰白色 |                            |
| 63 | 甗? | 円形の浮文 ナデ       | ナデ      |               | 茶灰色  | 土師器<br>底部は静止<br>鋭削り        |
| 64 | 甕  | 波状文 横ナデ        | 横ナデ     | 同一個体          | 灰色   |                            |
| 65 | 甕  | 2段の波状文 横ナデ     | 横ナデ     | 同一個体          | 灰色   |                            |
| 66 | 甕  | 鋭削りのあと横ナデ      | 横ナデ     |               | 青白色  |                            |
| 67 | 鉢  | 叩き 焼成は上師質      | 同心円叩き   | 角閃石・斜長石       | 茶色   |                            |
| 68 | 杯  | 底部は鋭削り 他は横ナデ   | 横ナデ     | 石英            | 赤褐色  |                            |
| 69 | 杯  | 底部は鋭削り 他は横ナデ   | 横ナデ     | 斜長石           | 赤褐色  |                            |
| 70 | 杯  | 横ナデ 底部は磨滅      | 横ナデ     | 斜長石           | 赤茶色  |                            |
| 71 | 杯  | 底部は鋭削り 他は横ナデ   | 横ナデ     | 石英・斜長石        | 赤茶色  |                            |
| 72 | 杯  | 底部は鋭削り 他は横ナデ   | 横ナデ     | 斜長石           | 黄茶色  |                            |
| 73 | 杯  | 底部は鋭削り 他は横ナデ   | 横ナデ     |               | 淡茶色  |                            |
| 74 | 杯  | 底部は鋭削り 他は横ナデ   | 横ナデ     | 磨滅している        | 精選粘土 | 黄茶色                        |
| 75 | 杯  | 底部は鋭削り 他は横ナデ   | 横ナデ     |               | 角閃石  | 淡茶色                        |
| 76 | 杯  | 底部は鋭削り 他は横ナデ   | 横ナデ     | 磨滅している        | 精選粘土 | 黄茶色                        |
| 77 | 杯  | 底部は鋭削り 他は横ナデ   | 横ナデ     | 石英・角閃石        | 赤褐色  |                            |
| 78 | 鉢  | 横方向の鋭研磨        | 横方向の鋭研磨 | 石英・斜長石        | 淡茶色  |                            |
| 79 | 鉢  | 横ナデ            | 横ナデ     | 斜長石           | 赤褐色  |                            |
| 80 | 脚  | 鋭削りによる面取り 他はナデ | 横ナデ     | 精選粘土          | 赤茶色  |                            |
| 81 | 鉢  | 胴部は横刷毛のあとナデ    | 横ナデ     | 石英・斜長石        | 暗茶色  |                            |
| 82 | 甕  | 横ナデ            | 横ナデ     | 石英・斜長石        | 暗茶色  |                            |
| 83 | 甕  | 口縁横ナデ 胴部刷毛目    | 横ナデ     | 石英・斜長石        | 明茶色  |                            |
| 84 | 甕  | 横ナデ            | 横ナデ     | 斜長石           | 明茶色  |                            |
| 85 | 甕  | 叩きのあと横刷毛目      | 横ナデ     | 斜長石           | 赤褐色  |                            |
| 86 | 甕  | 横ナデ 一部に刷毛目     | 横ナデ     | 斜長石・石英        | 赤茶色  |                            |
| 87 | 甕  | 横ナデ 刷毛目        | 横ナデ     |               | 黄茶色  |                            |
| 88 | 飯  | 横ナデ            | 横ナデ     | 角閃石・斜長石       | 黄茶色  |                            |
| 89 | 飯  | ナデ             | ナデ      | 角閃石・斜長石       | 黄茶色  |                            |



第12圖 新光遺跡B地区出土土器実測図(1)



第13图 新光遗址B地区出土土器实测图(2)

### III まとめ

新光遺跡の調査は、狭い面積で、しかも短期間であったが、多くの成果をあげることができた。そこで、最後に検出した遺構や出土した遺物の時期を考え、まとめにかえたい。新光遺跡からは前章で述べたように古墳時代と奈良時代と考えられる遺物が出土した。まず、古墳時代の住居跡から出土した一括遺物であるが、明確な壺形土器はないものの、他の器種はそろっている。甕形土器の器形は口縁部が外反し、胴部が球状に張るものが多いが、5は長胴気味になり、10は尖底になる。器面調整は外面に刷毛目が多く見られるが、内面は9・11が刷毛目、1・4・5・10が篋削り、3・6・7・8がナデで仕上げられている。高坏の坏部の形態は外面に稜線を生じて屈曲する14・16・22・24・28～30と浅い皿状になる12・17・25・27、そして両者の中間形態とも言える13・15・26がある。また、脚部の形態は脚部下位で屈曲する18～21・25・27・28とラッパ状に開く23・24・29・30、そして両者の中間形態の22・26・28が認められる。器面調整は刷毛目が残るものもあるが、基本的には篋磨きで仕上げている。小形丸底壺は口縁部が残るものが31～34の4点があるが、その形態は口縁部が直口気味になる。器面調整は31・32が篋研磨で、33・34は刷毛目で仕上げられている。

大分県での古式土器師の編年は大分市守岡遺跡・浜遺跡、宇佐市赤塚古墳、竹田市小園遺跡・石井入口遺跡・楠野遺跡、玖珠町おごもり遺跡、直入町牧ノ原遺跡などで良好な資料を得、小柳和宏により試案が提示されている。最近でも大分市地蔵原遺跡や犬飼町高松遺跡・千歳村高添遺跡・三光村佐知遺跡からもまとまった資料が出土している。

これらの資料を器種ごとに、その変遷をたどると、甕形土器は、長胴・刷毛目調整から球状胴部・内面篋削り調整の盛行となる。高坏は坏部の側面観が逆台形になるものが主体を占め、新しくなるにつれ、坏底部が拡大し、口縁部の反りが直線的になる。脚部はラッパ状になるものから、脚部下位で屈曲するものが出現する。また、小形丸底壺は古いものは口縁部が外反し最大径部となっているが、新しくなると口縁部は直立気味になるとともに胴部が球状になり、口縁部と胴部の径が同じになるか後者が大きくなる。

以上のような流れの中で新光遺跡の住居跡出土の土器を見ると、甕形土器は胴部が球状になり、内面は刷毛目もあるものの篋削りとナデが主体を占める。高坏は坏部の側面観が逆台形で口縁部は直線的になり、坏底部は拡大している。脚部はラッパ状になるものと脚部下位で屈曲するものの両者が見られる。小形丸底壺は口縁部が直口気味になり、胴部は球状に張る。最大径は口縁部と胴部が同じか後者が大きい。このような土器群は小柳編年案の楠野遺跡住居跡群に類似しており、ⅢA・B期にあたる。ⅢC期を5世紀後半とする小柳案から想定するとこの時期は5世紀前半～中葉と考える。

奈良時代の遺物は新光遺跡のA・B両地区から出土しているが、多く出土したのはB地区である。B地区の出土状態は包含層からであり、少量で正確には同時期とは言えない。しかも大分市のある豊後国での報告された奈良時代の資料はすくなく、編年は確立されていない。そこで最近報告された宇佐市弥勒寺遺跡や豊前国を中心に奈良時代の土器編年をまとめた佐藤浩司の編年案と対比しながら、新光遺跡B地区出土土器の時期を考える。新光遺跡B地区から出土した土器の器種は、須恵器では坏蓋・坏身・大甕がある。51の坏蓋は宝珠のつまみがつき、52・53は口縁端部が断面三角形に仕上げられる。56の坏は底部がやや丸味をおび、体部は外傾する。58～62の碗には高台がつき、体部と底部の境目より内側につく。64・65の甕は、口縁部を帯状に肥厚させ頸部に横波状文がある。土師器は坏・鉢・甕・高坏の脚・甕が出土した。68～77の坏は丸底気味で、68・74～77の底部には手持ち匏削りの跡が観察できる。80は高坏の脚部であるが横断面は7角形になり、精選粘土を使っている。83～87の甕は口縁部が直線的に外反し、胴部の張りは小さい。

以上の特徴をもつ新光遺跡の遺物を、佐藤編年案で見ると8世紀前半から中葉にかけてのものと類似する。特にこの時期の土器の形態変化を追う上で最も有効な坏蓋の口縁端部にくちばし状になるものが含まれないため、8世紀前半が主体となると考える。

註1 小柳和宏「土器の編年」『楠野』大分県文化財調査報告 第63輯 大分県教育委員会 1983

2 佐藤浩司「奈良時代の須恵器と土師器 ―旧豊前国を中心として―」『東アジアの考古と歴史 下』岡崎敬先生退官記念論集 1987



新光遺跡遠景 1



新光遺跡遠景 2



新光遺跡A地区 全景



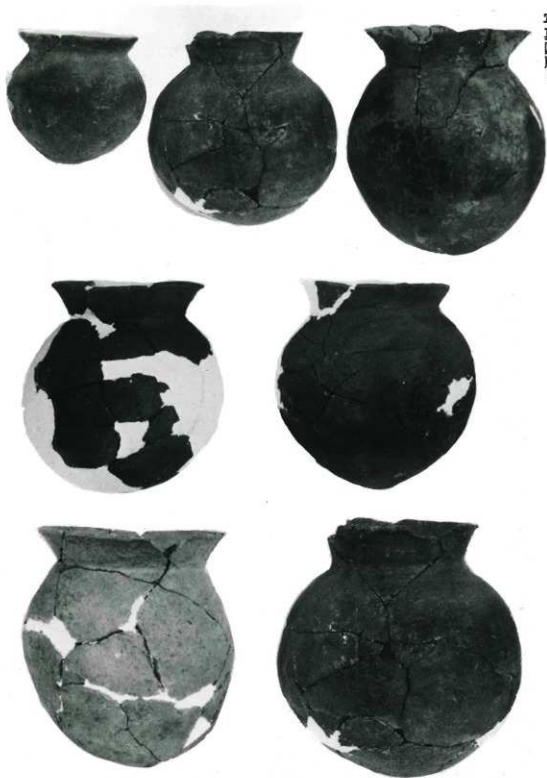
新光遺跡A地区住居跡検出状況



新光遺跡A地区住居跡内遺物出土状況



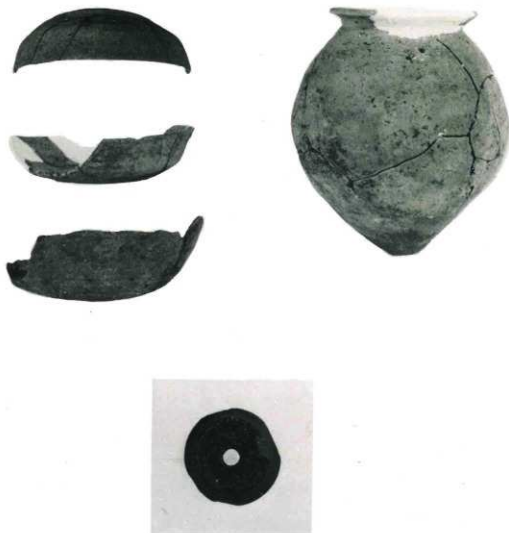
新光遺跡A地区奈良時代遺構検出状況



新光遺跡A地区出土遺物 (1)



新光遺跡A地区出土遺物 (2)



新光遺跡B地区出土遺物

---

# 新 光 遺 跡

大分県文化財調査報告書 第8<sup>2/</sup>輯

1990年3月

編 集 大分県教育庁管理部文化課  
発 行 大 分 県 教 育 委 員 会  
印 刷 明 治 印 刷 株 式 会 社

---

